

氏名	松 田 充 浩
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1648号
学位授与の日付	平成9年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学（三）専攻 （学位規則第4条第1項該当）
学位論文題目	Glomerular Expression of Macrophage Colony-Stimulating Factor and Granulocyte-Macrophage Colony-Stimulating Factor in Patients with Various Forms of Glomerulonephritis（糸球体腎炎患者の糸球体におけるマクロファージコロニー刺激因子と顆粒球マクロファージコロニー刺激因子の発現）
論文審査委員	教授 原田 実根 教授 中山 睿一 教授 赤木 忠厚

## 学位論文内容の要旨

【目的】 Macrophage colony-stimulating factor (M-CSF) と granulocyte macrophage colony-stimulating factor (GM-CSF) は、マクロファージの増殖、遊走や活性化を促進する重要な因子である。糸球体腎炎の発症、進展過程におけるCSFの役割を明らかにする為、各種糸球体腎炎患者の腎組織におけるCSFの発現と腎組織障害度、臨床検査値との相関を検討した。

【方法】 IgA 腎症、ループス腎炎、膜性腎症、微小変化型ネフローゼ患者の腎生検組織及び正常ヒト腎組織における、M-CSF、GM-CSF の発現を蛍光抗体法、in situ hybridization 法を用いて検討し、さらに組織所見、マクロファージ数、臨床検査値等との相関を検討した。

【結果】 蛍光抗体法では、正常腎でも糸球体係蹄壁、メサングウム領域に M-CSF、GM-CSF の弱い染色が見られたがループス腎炎、IgA 腎症患者では増強していた。糸球体内の細胞増殖の程度、活性化細胞数、マクロファージ数、蛋白尿とM-CSF 染色強度との間に正の相関が得られた。M-CSF のmRNA の発現は、ループス腎炎、IgA 腎症患者では明らかに増加していた。

【結論】 M-CSF は糸球体内に発現し、マクロファージの遊走や活性化を介してメサングウム増殖性腎炎の進展に関与していると考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

## 論文審査結果の要旨

本研究は、各種糸球体腎炎の組織障害と腎組織における macrophage colony-stimulating factor (M-CSF) 及び granulocyte-macrophage colony-stimulating factor (GM-CSF) の発現との関連を腎生検組織を用いて検討したもので、ループス腎炎及び IgA 腎症の糸球体内とくにメサングウム領域に M-CSF 発現の増強を蛍光抗体法や in situ hybridization 法で認め、その程度は糸球体腎炎の臨床病理学的所見と相関し、また活性化マクロファージの糸球体内への浸潤も観察しているが、GM-CSF の発現増強はみられない、という成績を得ている。

したがって、本研究は、メサングウム増殖性腎炎の進展に M-CSF が関与していることを明らかにしたものとして価値ある業績であると認め、よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。